

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

昭和二年三月二十六日刊行

第二輯目次

第二輯の刊行に就て.....堀場信吉.....

原 報

- 鹽素及び水素の光化學結合に就て (第一報).....堀場信吉..... 1
市川禎治
特種の膠質系に對して
「ワイゲルト効果」の擴張 (第一報).....堀場信吉..... 27
今堂健雄

紹 介

- 界面電位に就いて.....志方益三..... 42
最近の赤外スペクトルの研究.....石野俊夫..... 63
 α -Particles による化學作用.....陳 之 霖..... 81
強電解質論.....堀場信吉..... 98

難 報

編輯者

主 幹 堀 場 信 吉

市 川 禎 治 今 堂 健 雄

次 輯 豫 告 (七 月 發 行)

原 報 蒸氣壓測定に關するもの。

紹 介 強電解質論續編

接觸觸媒論

過マンガン酸加里の酸化の機構 等。

次輯以下に寄稿を承諾せられたるもの

最近の有機化學と物理化學の進歩 小 松 茂 教 授

最近の工業化學と物理化學の進歩 喜 多 源 逸 教 授

最近の動物學と物理化學の進歩 川 村 多 實 二 教 授

最近の生理學と物理化學の進歩 正 路 倫 之 助 教 授

本誌第三輯は本年七月發行の

豫定であります。

本誌に關する批評注意要求等

は京都帝國大學物理化學研究

室内市川禎治あてに願ひます。

昭和二年三月二十三日 印刷

(年三回刊行)

昭和二年三月二十六日 發行

物理化学の進歩第二輯

定價金壹圓參拾錢

編輯主幹 堀 場 信 吉

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

發行者 佐 藤 正 叟

東京市京橋區弓町二十五番地

印刷者 高 橋 郁

發行所

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

至 文 堂

振替東京二九五〇七番 電話青山 { 三五四六番
四三四三番

三協印刷株式會社印刷

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化学の進歩

第一輯目次 (年三回刊行)

化學反應の副射説。一次反應の機構に關する Roy 説に就て.....	堀場 信吉
Dalton 氏分壓の定律に對する違背に就て.....	四手井次太郎
興衡水銀分子による水素分子の活性化に就て.....	近森誠一郎
電氣放電による活性水素に就て特にその化學的動作に就て.....	市川 禎治
ニツケル、銅觸媒の存在に於ける水素の臨界電壓.....	李 泰 主
アトムストラレン.....	城野和三郎
鹽素及び水素の光化學結合に就て.....	市川 禎治

科學の進歩は日一日として休止する時はない。特に近時に於ける物理學及び化學の進歩は實に目覺しいものであつて科學進歩の歴史上後世から見ても現代は必ずや一つの光輝ある時代として残るだらうと思はれる。私共此の時代に於て科學の一部門の研究に身を委ねてゐる者は自分の研究が世界學術進歩の潮流に對して何様の關係があるかを絶えず注意して、互に研究上の努力が無意義の事に費されぬ様に努め而して吾人の仕事が出来得るだけ學術の進歩に貢獻する様にせねばならぬ。然しながら現代の如き學術の進歩の急激なる時に於ては最新の進歩の状態を理解する事すら可なり困難の事である。今之を私共の問題としてゐる「物理化學」に就て見るに物理化學の純理方面に於ては物理學化學の兩方面に亘り其の進歩を絶えず注意する必要がある、

其の應用方面に於ては工學、醫學、農學其の他各學科に亘り注目を要するものであつて其の範圍が極めて廣い。爲に物理化學最近の進歩を知つて行く事のみでも大なる努力を要するものである。たとへ自身の研究して居る方面に關しては世界の誰れにも努らぬ自信を有する人であつても物理化學各方面に亘つて日々進歩して行く世界の形勢を見る事は可なり難かしい事である。其の爲めには適當なる紹介者によつて最新の知識を得る事が最も便利の方法であらねばならぬ。内外の各専門雜誌に附屬せる論文抄録の一部の目的は最新の研究を成る可く早く紹介するにあるが普通の抄録では何の雜誌に此の様の研究が表はれたかを大體知る程度であつて其の内容を解する事は一般に困難である。英の Chemical Society の Annual Report、獨の Ahrens の Sammlung、又雜誌 Naturwissenschaften の特別號及び Ergebnisse der exakten Naturwissenschaften 等は上述の目的に適合したもので極めて確實のものである。然し物理化學のみに就て發行せられて居るものは未だ何れの國にもない。又此の如き紹介は特に邦文にて記されたるものを吾人は要求し若しかゝるものが出來ればいかに研究上便宜を得るかと吾人は考へて居つた。たゞ此の如き雜誌又は書籍の編纂は日本に於ける多數の専門家の協力により各自専門の部分を分擔して始めて完全なるものが出來ると思ふ。然しかゝる事業には幾多の困難が伴ひ急に實行の運びに至る事はむづかしい。此處に於て吾人はやゝ無謀の誹があるかも知れぬが現在の京都帝國大學の物理化學研究室の各員が協力執筆して「物理化學の進歩」なる定期の刊行物を出版する事とした。

完全なる事を望んで永く不實行の儘で放つて置くよりも不完全であつても實行の可能性ある事を試み漸次進歩せしめて行きたいのが吾人の希望である。現在にあつては吾が研究室の人員も少なく研究してゐる方面もある限られたる方面のみであるが爲めに各自執筆するものもある部分に偏して物理化學全般に亘つて其の進歩を紹介する目的には不充分であるかも知れぬ。たゞ吾が國に於て日々物理化學に興味を有する人が増加しつゝある今日幾分にもそれ等の人々の研究に便宜を與へ得たならばこれ又吾人が學界に貢獻する一つの途であると考へて敢えて此の計畫を進めた。

(理學博士 堀場信吉、刊行に就いての辭)

自然科學研究叢書

第一編

近世高等代數學

京都帝國大學教授
學博士 園

正造著

昭和二年三月發行

第二編

高等物理學概論

東北帝國大學教授
學博士 大久保準三

著

昭和二年四月發行

第三編

物質運動論と物理化學

京都帝國大學教授
學博士 堀場信吉

著

昭和二年九月發行

第四編

動物發生學

九州帝國大學教授
學博士 大島廣

著

昭和二年十月發行

第五編

環の理論

京都帝國大學教授
學博士 園正造

著

昭和二年九月發行

第六編

喜多源逸著

京都帝國大學教授
學博士 喜多源逸
昭和二年十月發行

東北帝國大學教授 理學博士 大久保準三著

最新刊



菊版約七〇〇頁

著者は物理學特にその光學の研究に於て學界に名を成せる新進氣鋭の大家。最近歐米の學界を視察して、歸來益々研學に努めその名聲愈々重きを加へつゝ、而も傍ら意を中等程度の物理學教育に用ひ、この方面に於て亦不世出の才分を示して獨白の新生面を拓き、深遠なる學殖と共に、今や斯界注目の焦點賞讃の的となるに至つた。

本書は物理學全般に亘りて澤山な精巧なる挿繪を用ひて極めて詳細に而も極めて平易に説明したる大著。物理學教員諸君に取つては實に貴重な教授資料たる無比の寶典、又學生諸君は本書によつて中學程度以上の物理學を容易に獨修し得るのである。

物理學に於ける難解の箇所、重要な點は、特に著者獨特の明快なる説明解釋を施し、物理學を根柢より了得せしむることに努めた。

あらゆる方面より計算問題を多數採録して之に詳解を附し、模範的解答を示して、何人の如何なる疑問をも直ちに氷解せしむる事を期した。

物理學專攻者、中等學校教師、學生、高等諸學校受験生その他苟も物理學を學ばんとする者萬人必讀必備の最新最高模範的講義たるを失はない

東京帝國大學助教授 増田惟茂先生著

最新刊
實驗心理學序說
前編

定價 金五圓
送料 金拾八錢

今や世界の心理學は全く劃時代的新氣運に際會し其根柢から見直され書改められんとする。本書はこの新氣運に乗じて從來の何れの學說にも捉はれることなく、著者獨特の思索と實驗とを基礎として其の蘊蓄を傾倒し心理學の眞面目を闡明すると共に今後の新進路を示してゐる。

- 一 本書は從來の心理學書に見るが如き根據の不安定なる實驗やテストに憚らずして、堅實なる理論で基礎づけながら心理學の實驗を懇篤に詳述した。
- 一 本書は一面に於て哲學書である。單なる思索や淺薄なる經驗哲學に憚らずして、その實驗的研究を徹底せしめながら、人生に對する深い同情と眞理に對する飽くことなき熱求とに驅られながら著者獨特の哲學觀を論述した。
- 一 本書は各章の排列に獨自の新機軸を出し、説明頗る懇切初學者に對しては最も分り易く一讀以て諸家の說を知り世界の心理學界の趨勢に通じ心理學の正しい學び方を示し、尙又一層立入つて研究せんとする専門家に對しては、どこまでも其の好伴侶たらんことを期した。

著者は我國心理學界に於ける新進の大家、本書は實に著者が十數年の研究の結晶であつて、其所説は實に我が心理學界の一大權威であるばかりでなく、正に世界の心理學界に對して一大貢獻をなすものである。若し夫れ英佛獨の何れかの國語で書かれたならば世界心理學界に於ても亦廣く且眞面目に讀まれば世界的名著である。苟も新心理學の眞諦を解し心理學の新機運を知らんとする人は先づ本書を見られよ。

東京帝國大學教授
東京市學務局長

文學士 大島正徳著

定價二圓七十錢
送料八錢

版九十

倫理學概論

本書は倫理哲學を以て我が學界に重きをなせる著者が、その該博なる知識を以て倫理學上の諸問題を最も廣汎に亘り極めて公平に取扱つたものである。本書の生命とする所は各種の倫理學說を最も正確に解説して、これを正當に批判すると同時に、著者独自の意見を以て申貫するを忘れなかつたことである。更に本書の主眼とする所は、その蘊蓄を傾倒する底のものでなくて、寧ろ倫理學の入門書たらしめんとしたことである。随つてその解説に於ても川文に於ても平明を旨とし何人と雖も一讀直ちにその要領を會得せしむることに心をを用ひた。これによつて讀者は自己の反省と實踐とに資すると共に、進んでは人生の哲學的思索の諸問題に對する金鑰を把握することが出来るであらう。實に本書は邦人の手になれる殆んど唯一の倫理學概論とも云ふべく、思想問題の喧しい時に於てその根本的善導法を標置する絶好の著書である。更に本書は専門學校の倫理學教科書としても極めて適當なものである。

東京帝國大學教授
東京市學務局長

文學士 大島正徳著

定價三圓
送料十二錢

版三

經驗派の哲學

現代は哲學の時代である。實に哲學は人生の深化であり眞理の殿堂である。眞の自由と解放と達觀とは専ら哲學的思索によつてのみ得られる。惟ふに現代に於ける一切の思想問題社會問題乃至教育問題は今やその根本よりの解決を要望してゐる哲學的思索は此等諸問題の解決に對する唯一の金鑰である。本書に收むる所は現今世界を風靡しつつある英米の經驗派の哲學を主とし加ふるに佛のベルグソンの哲學を以てした。實にこの經驗學派の哲學に獨逸派の哲學と相對立して哲學の分野を畫した一大潮流である。而も我學界に於て看過されて居る一面である。著者は我が國に於ける經驗學派の第一人者その周匝にして徹底せる解説論明はよくこの學派の本づく眞理觀の特質と根底とを指摘しかねて人生生活の原則を闡明してゐる。是れやがて哲學的思索の全野に亘つて理解を助け一道の光明を與へたものである。

東京帝國大學教授
東京市學務局長

文學士 大島正徳著

定價二圓八十錢
送料十二錢増補
第五版

思想の人生

本書は著者が人生の高處に立つて廣くその思想生活の各般に亘り内面的に極めて深刻に思索し批判したものである。本書の所論は文化の本質より人生の法則に關する一般的理論を初め更に進んで現代の所謂思想問題より實際生活にまで立入つてゐる。實に歐洲大戰後の改造は畢竟精神文明の提唱にある、精神文明の普及によつて人生を高め人生を價値づげんとするに他ならぬ。而して精神文明の要素は一にかかつて思索に存する。この思索によつて思想を深めその思想によつて自らも生き社會をも導く是れ文化生活の根本義である。然らば如何なる思想によつて自らも生き社會をも導くべきか、如何なる思索が人生を最も意義あらしめるか、思索が如何に人間生活に重要なるか、是れ本書が提唱せんとする大眼目である。今や時代は大動搖より小動搖に破壊より建設に、衝動化より合理化に移り進まんとし、人々はその心に目醒めて人生の根柢より思索し深く新に改造の道を求めんとしてゐる。此の時に當り哲學的思索を以て我が學界に重きをなせる著者の該博なる知識を傾倒したる言説は快刀亂麻よく人生の新生活を開拓して人心の歸趨する所を明示してゐる。實に本書は精神文明の基礎を決定するもので、同時に讀者の思索生活をより深く根本的に善導する絶好の著書である。

東京帝國大學教授
東京市學務局長

文學士 大島正徳著

定價三圓五十錢
送料十二錢

忽五版

新思想の批判と主張

今や吾が思想界は一大危機に際せり、上下三千年に亘りて連綿として變らざりし吾が國民思想は歐洲戰後の外來思想に影響せられて今や全く混亂の狀態にあり、此時に於て當になすべきは吾が國民思想と外來思想との調和にあり新思想と舊思想との融合にあり。此の兩思想を融和するには先づ國民思想を闡明し、國民思想と外來思想との長短利不利を考察し批判して新道德を樹立せざる可らず、新思想の批判と新道德の樹立是れ實に刻下の急務にして讀者の思ひを潛むる所著者亦茲に見る所ありて本書を公にす。内容は第一自由解放社會連帶、第二國家人格論、第三現代と道德的改造、第四自發教育と自發道德の四項目より成り更に二十二の細目に分る著者大島文學士が斯界の重鎮たる事は世既に定奪あり。本書が新時代の無二の經典たる事言を俟たず。

東京帝國大學講師 大島正徳先生著

最新刊

自治公民の根本義

定價金貳圓五拾錢

送料金拾錢

自治公民たるの自覺の緊要なるは萬人の認むる所、而してその法制的意義を論ずる者もまた多し。しかもその精神的自覺、人生に於ける眞意義を説く者に至つては頗る稀である。

著者は公民教育界に於ける第一人者、その倫理哲學に於ける該博なる學殖を背景とし、併せて前東京市教育局長として豊富なる實際的經驗を以て直截平明に社會人生の根本義より、自治心、公民精神を説く。

所説は深奥なる自律心と熱烈なる人間愛とより發足して、自治公民の眞意義を闡明して餘蘊なく、延いては社會國家の精神的構成に及ぶ。人生哲學の奧義に立つて現代の社會世相を解剖痛論し、社會と個人との内面的關係を説いて、隨所に我が國現代社會の缺陷を指摘してその猛省を促し、滿卷憂國慨世の熱誠漲る。平明透徹せる理論は全篇を串貫して、我の外にも内にも「社會」を見るの社會我的自覺に徹し、以て道德的精神的公民たるの自覺を要望絶叫す。これ何人も企及し得ざりし所、在來の法制的解釋或は過去の消極的道德論より達し得ざる新生面の展開、しかも穩健なる新道德の提唱着實なる新社會觀、新國家觀の樹立である。

本書は誠に自治立憲制の下、普選の現代に國民指導の最大幹線を描き示すもの、實に萬人必讀の公民讀本、特に公民たり、公民を説かんとするものにとりて唯一無上の聖典と推すべき名著である。

國史研究叢書第一編

東京帝國大學助教授 文學博士 平泉澄先生著

忽三版



定價金四圓五拾錢
送料金拾八錢

本書は從來殆ど閑却せられたる中世に於ける精神生活を主題とし、之を縦横に解剖し論議し、前人未踏の境地を開拓し、新たな組織を與へんと試みたものである。之を縦横に解剖し論議し、先づ上代に於ける教育を検討して其本質を究め、之が中世に入つて如何に變遷したるかを見、以上代に於ける教育を受けたる精神的遺産を明かにすると共に、王朝の衰微によつて萌した上代憧憬の心境が、如何に強烈に各方面に現れてゐるかを見た。中世に於ける上代憧憬の念はやがて古典の研究を誘起した。よつて著者は具にその事情を明かにすると共に、古典の研究態度より引いて、強烈なる宗教意識の問題を誘導し、遂に上代の文學的價值は、古典の研究的態度より引いて、強烈なる宗教意識の問題を誘導し、を明かにすると共に、此の宗教的意識は主として寺院の活動に依つて醸成せられた事情を明かにした。

一 中世に於ける教育の源泉たる寺院の活動を説き、其の時代相との關係を探討して寺院教育の本體を見ると共に、從來唯一の教育機關と考へられてゐた金澤文庫、足利學校を解剖して、其の變遷を打破し、兩者とも殆んど教育に關係のないことを明快に指摘した。

一 中世生活の一大主流をなす憂鬱の本質を解剖して深刻なる時代形相を詳細に説述すると共に、之が上代末期の頹廢と、更に陰陽道、宿曜道並に佛教思想に因由する事情を闡明した。

一 更に中世に於て接頭した新勢力たる武士的精神の特性を論じ、其の思想的根柢が禪宗によつて與へられたことを説き、やがて宋學が之に代つた所以を明かにした。

著者は國史學界に重きをなせる新進の大家、其の透徹した歴史觀と最も新しい研究法とを其體化して錯雜極りなき中世精神生活の種々相を捉へ、よく其の闇黒を照破し、遺憾なく其の全面容を展開してゐる。蓋し本書に依つて歴史家は其の研究の新生面を發見し、思想家は中に於ける文化的價值を見出すであらう。

國史研究叢書第二編

東京帝國大學助教授 文學博士 平泉澄先生著

三 版

中世に於ける社會の關係

定價金參圓五拾錢
送料金拾四錢

我が國中世期は從來専ら武家時代として取扱はれ、その社會生活に極めて密接なる關係を有し、而も極めて重要な地位を占有する神社並に寺院に就ての研究は殆ど閑却せられてゐた。本書は中世史に於けるこの大缺陷を補はるが爲に専ら當時の社寺と社會生活との關係を研究したもので、之に依つて我が中世期は始めてその眞實相を闡明することが出来た。

一 アジール(寺入り)を中心として社會に於ける寺院の地位を論究した。先づ西歐諸國のアジールの歴史を述べ我が國上代に於て殆ど見なかつたアジールが中世に入つて漸く諸寺の間に發達し遂には如何なる重罪犯人と雖も一度寺門を入れば忽ち追跡を免れ、寺院は殆ど治外法權を有し公家武家と鼎立するに至つた狀勢を説述した。

一 經濟生活を中心として社寺と社會との關係を究明した。即ち市町村の發達、商業、金融等の狀態を述べ和母子、無盡、爲替等の發達が社寺に負ふ所多きを説き關所御師等に就て社寺と交通との關係に及び、更に西洋のギルドに比すべき座の問題を論述した。

一 精神生活の方面に於て教育を主とし社會との關係を明かにした。即ち幾多の新發見により中世の往來物約三十種をとつて之を縱横に解剖し、子弟は悉く寺院に學び教科書は多く僧侶の手に成つて社寺が教育の中心をなした事情を論じた。

一 かやうに犯し難き特權を有し社會生活の中心をなした社寺が中世の終近世の始に於て俄然勢力を失墜するに至つた狀勢を説き内外にその原因を究めて世運の推移を明瞭にした。

著者の前著『中世に於ける精神生活』は一度出でて學界に異常なるセンセーションを惹起し思想界讀書界に大なる波紋を描いた。少壯氣鋭なる著者は學界注目焦點に立つて今又本書をなす。實に本書は著者が大學院に於ける研究の結果を要約したもので審査の結果學位を授けられたもの、著者の中世史研究の第一歩であつて、未だ曾て知られなかつた幾多の重要な史實を驅使して前人未到の境地に參入し國史に一新生面を開いたものである。實に本書は少壯敢爲なる著者の生新なる史眼と正確著實にして而も自由奔放なる態度を以て書かれたるもの、これ從來の史書に絶えて見ざる所である。

國史研究叢書

(近刊ノモノ)

第三編

近世史の發展と國學者の運動

法政大學教授
文學士

竹岡勝也著

昭和二年三月發行

第四編

近世日本演劇の源流

文學士
原田亨一著

昭和二年四月發行

西洋史概説

東京帝國大學講師
文學士

山中謙二著

昭和二年四月發行

東京帝國大學助教授 文學博士 平泉澄先生著

忽三版



定價金參圓四拾錢
送料金拾四錢

本書は著者の過去十年間に於ける國史の研究論文十三篇を收録したるもの、凡て是れ前人未發の新説で何れも學界を驚倒せしめたものである。本書の卷頭卷尾を飾る我が歴史觀並に歴史に於ける實と眞とは著者の史學に關する高邁なる見識を語る者で、歴史研究に一新旗幟を翻して史學の正しき歸趣を明かにしたるもの著者の面目躍如たる者がある。更に其史實の研究に至つては透徹せる歴史觀と犀利なる眼光とは紙背に徹せずんば止まなかつた。其の日光東照宮の史實を説いては寛永の大造營の事情を仔細に究明して舊説を悉く論破し前後十三年の長年月を費したりといふ通説を覆して僅々十七ヶ月にして成れるの真相を喝破したるが如き、徳川家康の遺金を研究しては希觀の史料を尾州家並に久能山に得て複雑極りなき史實を明快に組織だて經濟的方面より家康秀忠家光の性格の特質を鮮かに描出したるが如き、又史上に煙滅せる五辻宮を研究しては守良親王の御事蹟を隠れたる斷簡零墨の間に辿り建武中興前後に於ける小説よりも奇なる波瀾重疊の御生涯を傳して殆ど奇蹟的に成功したるが如き全く國史界獨歩の觀がある。そして此等三篇は著者が學位を得たる參考論文である。

其の他源賴朝が朝廷の年號を用ひざりし事情を闡明したるが如き、經濟史上最も複雑にして研究に困難なる座の問題を提げて諸家と論陣を張りたるが如き、又龜山上皇殉國の御祈願に關し國史界に議論沸騰したる際に嶄新なる心理的研究に依りよく其の真相を明かにしたるが如き、守護地頭に就て諸家の議論紛糾したる際に其等の學說の根本的誤謬を指摘して別に透徹せる新見解を出したるが如き、本書に收むる諸論文は何れも國史界の第一線に立つものである。全卷是れ金玉の文字苟も歴史に志す者の必讀の好著である。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第三篇
大阪女子專門學校教授 文學士 兒山信一先生著

日本詩歌の體系

定價金參圓五拾錢
送料金拾四錢

和歌、俳句、俗間、民謡などの日本詩歌は國文學史上の花である。そしてこれ等はその量に於て各時代を通じて極めて重要な地位を占めてゐる。實際國文學の研究はその大半をこれ等詩歌の研究に俟つべきものであらう。しかし從來の研究は單なるその部分的研究の外に出でず表面皮相の研究に止つてゐる。本書はこの點に憚らずして著者が多年の蘊著を傾倒し日本詩歌の全野に亘り極めて複雑多様な内面本質に立入つてこれを組織立て體系つけたものである。

一和歌、連俳より唱歌、俗間、民謡等に至るまであらゆる種類の詩歌を對象とし、説經、祭文、鉢叩、讚美歌、歌劇などをも一々網羅した。

一日本詩歌の歴史的開展を跡づけたものではあるが、單なる表面に表はれた歴史的事實よりも寧ろその根柢に横はる存在理由を重んじながらその發展を系統的に敘述した。即ち日本詩歌が如何にして發生し分化したか、又それが如何にして發達興隆し何か故に衰滅萎微したか、更に將來如何に發展しゆくべきか等の問題を解決しようとした。これによつて日本詩歌の發生、發達、變遷、衰滅の根本理由を闡明した。

一詩歌そのものに對する正しい理解を有し確實な根據の上に立ち科學的方法によつて整理した。

日本詩歌は國民と共に存し國民と共に榮えるものである。本書はその歴史的根據の上に立つて日本詩歌の新生面を開展すると共に更に新しい問題を提唱したものである。日本詩歌の研究者は勿論一般國文學愛好者に絶好の著書であるばかりでなく苟くも廣く詩歌に思ひを寄せ興味を有する人々には多大の暗示を齎すものである。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第四編
文學士 手塚昇先生著

源氏物語の新研究

定價金參圓參拾錢
送料金拾四錢

源氏物語出て、九百餘年、實に國文學上の一異彩であるばかりでなく全世界に於ける最古の小説の一として、しかもあの時代に人情展開の過程を寫した物語として、その組織に於てその敘述に於てかゝるまでに完備したものを見たのは、正に世界文壇の一大驚異である。吾々は祖先の中にかゝる偉大な文學を有することを誇とし又心強く思ふものである。かくして源氏物語一度出て國文學の主流は全くその跡を追つて展開したとも見られる。されば源氏物語の研究は古くより行はれ現に年々殆ど大同小異の註釋書が續々刊行されてゐるのであるが、何れも先人の舊説を繼承保守したるものみにて、その評論考證に關する總論的方面の研究に至つては見るべきものが甚だ少ない。著者は新進儒學の士として見る所あり多年研究の結果遂に本書をなすに至つた。實に本書は過去五百年の源氏物語に關する評論考證の研究史を背景とし、而も創作に志す著者が當然の歸結として作家的見地より深く原作者の創作心理に立入つて研究評論したもので、過去の成説に提はれず幾多新説を出した源氏物語研究史の最前線に立つものである。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第五編

姫路高等學校教授 文學士 片岡良一先生著

忽三版 井原西鶴

定價金參圓五拾錢
送料 拾 四 錢

今若し元祿時代を知らうと思ふならば先づ西鶴の描いた所を見るがよい。實に西鶴は元祿時代の先頭に立つて、これを最も明白に最も大膽に、最も具體的に最も鋭く描いてゐるので、此の時代の生活の實際と趣味の根柢とを遺憾なく寫してゐる。一日に二萬三千五百句の放れ業に世人を驚倒せしめたのも西鶴である。一代の文人と俗流者として等しく讃仰の言葉を傳したのも西鶴である。こゝに西鶴のはかり知られぬ偉大さと複雑さとがある。本書は西鶴の此の偉大さと複雑さとの全面容を見盡さうと企てた。即ち人、俳諧、浮世草子、淨瑠璃などを始め其の他一切の餘技を通じて西鶴の稟質のあらゆる諸面に觸れようと試みたものである。西鶴の本體を見究めようとするには、内から其の心境の推移や創作心理に深い探りを入れると共に、外から元祿の時代思潮と時代生活とに觸れる必要がある。そこで時代的環境を明瞭にすることによつて、西鶴の相を鮮明に浮び上らせようと試みた。かくて著者の犀利なる觀察と多年の研究との結果は、本書に於て明かに西鶴の全面を蘇生せしめた觀がある。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第六編

東洋大學教授 文學士 湯地孝先生著

最新刊 樋口一葉論

定價金參圓五拾錢
送料 金拾四 錢

從來の觀念小説に激らずして新に心理描寫主觀描寫の旗幟を擁して佳作連出盛名を一時に慈にしたのは樋口一葉である。一葉の文壇に於ける活動は明治二十五年より其二十五歳にして病没するまで僅に四年。其間作る處二十數篇。本書は此等不朽の名作を通して一葉の全面容を知らんとするのである。

一 歸納的態度によつて各方面からの探求を綜合し一葉文學の輪廓と内容とを新に組織立てることに論斷の主意を置いた。

一 一葉文學の背景となした時代の趨勢特に寫實の風潮並に其次期への推移に留意し明治文學の中樞と一葉の過度期的文學との交渉を明かにしようとした。

一 努めて創作の心理に立入り其實生活から作品への過程消息を明かにしようとした。

一 一葉文學の史的價值を闡明すると共に其文學的價值を探り味の文學たることを強調した。

明治文壇に天才一葉を出したことは吾等の誇である。而も一葉に就て見るべき研究のなしいのは吾等の大なる恥辱である。著者は新文學に就て造詣深い篤學の士、殊に一葉を研究すること多年。本書は實に著者が苦心の結果を世に問はんとするもので、當時の文學界の勞苦氣並に水準を十分に考察して傳統的先入見を脱し一葉の眞面目を生かしてゐる。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第七編
東京帝國大學國文學研究室 文學士 池田龜鑑先生著

最新刊

宮廷女流日記文學

價金參圓五拾錢
送料 金拾四錢

王朝時代に於ける幾多の閑秀作家の筆になつた日記文學は國文學史上に於て特異の地位を占有するものであり同時に又獨自の文學世界を展開して極めて藝術的價値の高いものである。而も此等に對する研究考察は從來全く闕却せられてゐたのである。本書は茲に見る所あり、此の内親的な乃至哲學的ともいふべき一系列の文藝を主題として正當なる文學的地位を要求し時則證微なる批判及び鑑賞を試みて、その真意義を闡明したものである。

一、本書は著者が過去六年間各地を歴遊し各種の文庫及び諸家に秘藏せらるゝ門外不出の珍籍を涉獵し諸種の異本を精密に比較校合して本文を制定し古註を検討し前人未言の新解を施し精細なる索引を作り「宮廷女流日記考」無慮一萬八千枚の原稿を整理し此の驚くべき基礎的作業の上に漸く完成したる批評的鑑賞的考察である。

二、本書は日記文學及びその作者を知的に説明せんとするよりも寧ろ人間的に味得せんとしたものである。従つて王朝女性の模寫の姿態を外面的に解剖分析したものでなくてその間に現はれたる久遠の女性の輝かしき不朽の光彩を直に凝視したものである。

著者は新進篤學の士最近東大國文學科が生んだ秀才である。現時の國文學界に於ける混濁枯涸せる詮索的論文に倦らずして近代の理知と抒情詩的熱情とを交錯して繰り出した美しき藝術的評論である。實に本書は日記文學の研究としては我が學界に於ける最初の企てであり殆ど唯一の業績であつてその透徹せる判斷と明確なる論究と清澄なる鑑賞とは全く他の企及し得ざる所である。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第八編
大西貞治先生著

最新刊

古代純日本思想

定價金參圓五拾錢
送料 金拾四錢

本書は古事記並に萬葉集を中心としその他の文獻の助けをかり國初より奈良朝末に至る所謂精神的創造生活時代、國民生活自覺時代、國民生活激動時代に亘り専ら古代日本人の精神生活を對照として純眞な國民思想を研究したものである。即ち古代文藝に見えた純眞な國民思想の本質それが外來の儒佛思想によつて如何に影響せられ訓練せられたか、これが奈良朝に入つて如何なる形質をとつたか、更に儒佛思想が國民思想の上に如何なる痕跡を残してゐるか、この間に於ける思想界の狀態はどうなつたか、かういふ問題を極めて思想的に内面本質的に説明しようとするのが本書の主眼である。

一、古事記を以て古代日本の哲學と觀じたこと。

一、萬葉集を一般思想界の狀態から専ら思想的に觀じたこと。

一、古事記に具現せられた國民生活と萬葉集に表現せられた國民思想とが本質的に脈々味通するものであると觀じたこと。

從來に於て絶えて見なかつたこれ等の新見地に立ちその内容が驚くがまゝに深く内面の精神生活の殿堂に參入し著者自身の限りなき要求に應じて自由に親に自由に考へ新に見出した眞實相を具體的に描き出さうとしたのが本書である。古代の國民思想も現在の要求に應じて新に書き替へられなければならない筈である。かくして著者は十餘年研鑽の成果を以て世に問はんとするのである。古代思想は本書に於て初めて不變の價値と永遠の若きとを得茲に新生命を以て全く蘇生したかの觀がある。而も之によく思想的體形を與へた所に著者の獨創力の深きと浮れたる世界に浸透して行く力の強きとを見出すと共に、國文學研究に於て囑望せられてゐる少壯有爲の士である。著者は現時國文學界に於て囑望せられてゐる少壯有爲の士である。この隠れたる篤學者を世に紹介することを得たのは繁堂の喜びである請ふ先づ本書について見られよ。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第九編
成城高等學校教授 文學士 倉野憲司先生著

最新刊

古事記の新研究

價金 麥圓五拾錢
送料 金拾四錢

古事記は日本上代に於ける最も重要な文獻であつて、又古
代の國民生活を寫したるものとして、古代の日本を
知る殆ど唯一の實典である。而も從來の古事記の研究
には多くその註釋の範圍を出でなかつた。本書はこの點
自の徹然として深くその内容本質に立ち入り、全く著者獨
一の見解によつて根本的に研究論明したものである。そ
の成立・内容及び形式に亘つて民族的敘事文學と觀じ、そ
の質的研究を經とし、言語・神話・宗教・人類・考古・土
俗・歴史・民族心理等の各方面よりの科學的研究を
綜としたこと。
一 古事記研究の發達を眺めてその基礎的研究にも觸
れたこと。
一 古事記の素材をなす神話傳説及び説話の比較討覈
を試みたこと。
一 古事記の具現せられた上代の國民思想及び國民生
活を闡明せんとしたこと。
一 古事記の新しい見地に立ち著者が多年の蘊蓄を傾倒し
て、複雑なる古事記の内容本質に立入つて、之を組
織立て系統づけたもの、その科學的研究を試みた最初の
面である。實に本書に於て古事記の眞意義を始めて闡
明せられた觀がある。

東京帝國大學國文學研究室編輯

國文學研究叢書 (近刊)

正岡子規論

藤川忠治著

歌舞伎脚本史

守隨憲治著

近松門左衛門論

藤村作著

圖書名	著者名	定價 送料	内容特色
上方文學と江戸文學	東京帝國大學教授 文學博士 藤村 作著	2.80 円	近松四郎芭蕉種彦戯作者の群浮瑠璃へ色とりどりの酒落本と浪華から江戸其研究の第一人者所設平明獨自の者は
本抄 日本永代藏	東京帝國大學教授 文學博士 藤村 作編	08.0	國文中學に古典と共に重要な位置を占むる元祿の鬼才四鶴の所謂町人味讀を助ける諸學校教科用として好評
本抄 胸算用	東京帝國大學教授 文學博士 藤村 作編	0.70	國文學大系中不可逸の四鶴の名篇編用者前篇と共に註釋を施し別に教授學校教科用として遺憾なきを期した
の英詩英文玩文 そゝろあるき	鹽谷 榮著	1.50	英米諸文豪の名篇難作を抄譯論評し京高師教授の妙味を説く著者は元東管の向ふ所亦味ふべきものがあらう
無盡藏	駒澤大學長 文學博士 忽滑谷快天著	1.70	著者は禪門第一の著者無盡藏を説想いて亂雑の極致處世の要諦を推すべき無二の指南車満卷の趣味讀者を魅す
中等新作文	文學博士 五十嵐力著	3.00	現代文章道の隨一五十嵐先生の心血を注がれし名著一歩出で中等學校教科川として全國に採用され名聲を博すまた萬人必讀文章修業の最高指針
女子新作文	文學博士 堀越喜博著	3.00	歌人柴舟にて知られし女子國文先生活路を拓く前篇と共に作文界の双璧

理 化 學 ・ 醫 學 用

特殊高級玻璃器械
パイレックス硝子器械 製作販賣

並ニ

石 英 管 加 工

パイレックス硝子直輸入

特殊品御注文ニハ圖面御添付願上候

京 都 帝 國 大 學
諸 官 衙 御 用 達



山 下 製 作 所

山 下 耕 作

京都市上京區吉田牛ノ宮町十二(京大醫學部北門前)

電 話 上 一 九 五 七

振替口座大阪七四九八四

國語國文學の最高權威
東京帝國大學國文學研究室編輯



大正十三年五月創刊 毎月一回發行

每號國語國文學界の大家新進學者の研究並に國語教授に關する意見を發表致しますが、尙廣く大方の御投稿を歡迎致します。

特別號は年二回、四月、十月發行し、其他は普通號とす

定價表		定 價	
普 通	號 一	五 拾 錢	郵 稅
特 別	號 壹	五 拾 錢	郵 稅
半 年 分	四 圓	三 錢	共
一 年 分	八 圓	四 錢	共